

グリーンサークル21号

クローズアップ・宮入芳雄
活動団体を訪ねて・多摩中央公園班/亀ヶ谷緑地班
多摩市みどりのかわら版・高橋徹

ニュータウンで出会った里山文化

宮入 芳雄



クロマツ



宮入芳雄氏

多摩ニュータウンに住むようになって26年経ちました。人生で一番長く住んでいる場所になります。

多摩市に引っ越してきた翌朝、「メェ〜」という声で目が覚めました。ベランダに出てみると、向かいの斜面でヤギが草を食べていて、その上部には雑木林が広がっていました。

実は、ヤギは北豊ヶ丘小学校(現、豊ヶ丘小学校)で飼われていたもの、雑木林は小学校の学校林だったのですが、それが多摩丘陵の雑木林との出会いでした。

それまで根無し草のような生活をしてきたので、この引っ越しを良い機会にして地域に関わろうと思い、多摩市の「植物観察会中級」に参加しました。そこで知り合ったのが、内城道興さんと葉子さんでした。内城道興さんは「どんぐり山を守る会」の代表で、市民ボランティアで雑木林管理をする活動を行っていました。私もその活動に参加させていただきました。現在、仕事の関係で数年前から欠席状態ですが、雑木林の作業、ドラム缶式の炭焼き、キノコ栽培など、多くのことを「どんぐり山」で学びました。

それらを実践しているのが「桜ヶ丘公園雑木林ボランティア」です。「都立桜ヶ丘公園」にある「こならの丘」の雑木林を昔ながらの手作業で管理作業をしています。(最近メンバーの高齢化で草刈り機が導入されましたが…)また多摩の文化を継承しようと、メンバーはアズマネザサの皮を編んで作る「目籠(めかい)」の製作や、農業体験としてのサツマイモ作り、生葉からのお茶作り、キノコ栽培などにも取り組んでいます。

平成10年からは田んぼの作業も加わりました。東京都が公園用地として買い取った連光寺にある約1200坪の「谷戸田(丘陵地の湿地の田んぼ)」です。田んぼを調べてみると畦が鱗状でかすかな棚田になっています。昔からの多摩丘陵の農業遺産として大事だと思い、都と交渉の結果、我々が管理作業をすることが許可されました。管理目的は二つあります。「水田雑草の保護」と「谷戸田の景観保全」です。よく考えると矛盾しているのですが「水田雑草保護エリア」と「稲作エリア」に分けて両立するようにしています。その結果、珍しい水田雑草が生育するようになり、多くの生物が息をするようになりました。特に嬉しいのが、何年前からかは忘れましたが、地元の連光寺小学校5年生の「田んぼの授業」です。一枚の田んぼを「田起こし」から「脱穀」までを半年掛けて体験します。子どもたちも公認で泥んこになれるので嬉しそうです。

そうやって里山文化に接し、学んでくると人に話したくなります。しかし私は農業学部出身では無いし、理科の先生でもありません。そこで「森林インストラクター」の資格を取りました。現在その資格を生かし、林野庁の森林保護員として月7日を高尾山域の国有林のパトロール、月4〜5日を狭山丘陵にある都立公園のレンジャーとして歩いています。森林の健康チェック、植物調査と保護活動、ハイカーたちへのコース案内や注意、その他諸々。ハイカーから「お金貰って山を歩いていいね〜」と言われますが、荒天でも歩くので結構大変なのですよ。

桜ヶ丘公園雑木林ボランティア

平成3年から雑木林の里山再生、平成10年から谷戸田の再生保全、さらに、里山文化の継承にも取り組んでいます。雑木林では、一定区域内の木を切って更新を促す皆伐更新、下草刈り、希少植物の保護等の活動を行っています。

どんぐり山を守る会

多摩市落合2丁目にあるどんぐり山公園の雑木林の管理保全を行っています。昭和61年(1986年)、落合第五児童公園と呼ばれた時から緑地管理を始めて、雑木林を作ってきました。市民による里山管理の先駆的な団体です。



都立桜ヶ丘公園連光寺にて田起こしと稲刈り

～活動団体を訪ねて～

多摩中央公園班

班長 上田 誠

中央公園の概要

中央公園は多摩センター駅から南に歩いて5分のパルテノン施設のある丘陵地帯に位置し、多摩ニュータウンの中核を担うシンボルとして、都市基幹公園として昭和62年に開設された。

昭和52年に行われた設計コンペで「さりげない空間構想」をテーマとした最優秀案を元にして昭和52年から6年かけて完成した。パルテノン多摩、大芝生広場、旧富沢家など併設された総合公園で面積が、約11500㎡ある。

活動の概要

班の活動区域は、この公園の西～南側を囲むようにはしる遊歩道に沿ったエリアになる。この区域は、開発された旧多摩丘陵のわずかに残された竹林・雑木林地帯であり、林床整備を行ったことにより植栽環境が改善された。

ここを中1・2・3・4・5・竹林地区にわけて、地区ごとの特徴を生かした管理を行う。具体的には、中1地区のような竹林に囲まれた小さな広場ではタマノカンアオイやキンラン等を保護するため草刈を行い、群落の囲いを作り保護養生してきた。

中3・4・5地区の雑木林では下枝落としや小木や侵入竹の間伐行う。竹林地区では、古竹、曲竹、密集竹の削除を行うと共にこの伐採竹を竹垣や腐葉土囲いに利用し、生かしていく工夫を考えている。このようにして、明るく美しい竹林をめざす。

班の活動の特徴

中1地区には、雑木林に囲まれた小さな広場があり、ここはサクラやコナラ、アカシデ、クヌギ、ムラサキシキブの木々が、点在する場所で陽がよく差し込みキンランやタマノカンアオイ、ヤブラン、ヤマホトトギス、ホタルブクロなどが群生するようになったため希少植物の養生地としていく方向で管

理している。又、コナラ・クヌギ等の伐採木を利用してシイタケのホダ木としている。中1、中2、3地区は、雑木林地区だが、竹林に囲まれているため侵入竹が、多く毎年駆除のため格闘している。ただタケノコが多くでるので4月に行われるグリーンライブセンター講座の「親子でたけのこと遊ぼう」では、毎年多くの親子が参加して、タケノコ掘りを楽しんでいる。中3地区の桜の巨木は、中央公園班のシンボルとしているが、竹林と雑木に囲まれているため、間伐を行い明るく目立つ場所にして更にシンボルらしくいきたい。

中4、5地区は、竹林と隔絶されており、完全な雑木林であるが、細木も多く日当たりが悪くなるので、間伐をおこなわなければならない。しかし、何と言っても中央公園活動地区の最大の特徴は竹林であり、遊歩道に沿って広がっているため、ここをいかに美しく保つかに腐心している。

活動目標

竹林地区は、京都嵯峨野のような美しい竹林を目指す（少し無理かな）。

中4、5地区は、公園に面している場所でもあり、子供が安心して駆け巡れるような里山として管理していく。

以上のような目標で、班員一同楽しみながら、仲間同士語り合いながら、勉強しながら活動をしていきたい。

お問い合わせ

多摩市立グリーンライブセンター 電話 042-375-8716

活動日：第2、第4土曜日 9:30～12:30

集合場所：グリーンライブセンター

連絡先：^{かみた}上田 誠 m-kamita@mug.biglobe.ne.jp



春の竹林



竹の伐採作業



竹を利用した腐葉土囲

～活動団体を訪ねて～

亀ヶ谷緑地班

班長 桜井 弘

亀ヶ谷緑地のこと

各地にお国自慢があるように、亀ヶ谷緑地には萌芽更新を幾度も経験した・クヌギ・があります。根元が異様に太くて、スマートではない歴史を感じさせる一本です。恵泉女学園大学の宮内先生が、亀ヶ谷緑地に来る度毎に曰く「このクヌギは、多摩センター駅が出来た頃は車窓から見る事ができたんですよー」とご神木を話します。きっと最後の萌芽更新から、50年以上が経っているのではないのでしょうか。

亀ヶ谷緑地では、毎年新年の山始めに皆で、山と作業の安全と、緑地を訪れる人々から愛でられる里山を祈願しております。

特徴

緑地は、多摩の東へ伸びる稜線から北へ枝分かれした北の台地のはずれに位置しています。そのため西から北側斜面が緑地として、開発から外された場所になっている。緑地内でも谷筋は陽当りに少々難があるけれど、稜線上には、コナラ林とその下にタマノカンアオイの群生している地域も有しています。

また、昨年から管理区域に含めた竹林もあり、ニュータウンの造成から人の手が入っていない

った自然を、我々亀ヶ谷緑地班の皆で、緑地の将来像を語り合い、色々なことを試み、創っていけることが亀ヶ谷の特徴です。

未来のビジョン

亀ヶ谷をどのような里山として育てていくのか。我々にとって大きな課題であり、また楽しいことである。皆で考え、話し合い、ひとりひとりが大切にしていることを、作業として積み重ねていく、そんな事ができれば良いと考えている。

かつての里山が、そうであったように、人の手が必要な刻に、必要な作業を行うことが、周りの人達に安心感と爽快感を、木々や草花や鳥や虫にも良いものを残すのではないのでしょうか。

亀ヶ谷緑地班員は、人生の年期の入った会員が主流として活動しており、体力的・記憶力的に劣ることが多いが、時間的な余裕は豊かにお持ちの方が多い。急がず・あせらず・落ち着いて、一日一日の作業を継続していく。作業日を特定の日だけとせず、皆で決めた作業を、三々五々集まり進めていく。そのような亀ヶ谷緑地へと考えています。



竹林作業中



里山林作業路設置



里山林キクサギイチゲ



里山林東部斜面遠景

亀ヶ谷緑地班

平成23年(2011年)4月から亀ヶ谷緑地内の一部(多摩市落合3丁目)で多摩グリーンボランティア講座修了者による活動が始まる。

活動日: 第1、第3土曜 9:30~12:30

集合場所: 亀ヶ谷緑地

お問い合わせ

多摩市立グリーンライブセンター

電話 042-375-8716

多摩市みどりのかわら版
公園施設の施設更新がスタート！
多摩市環境部公園緑地課長 高橋 徹

グリーンライブセンターの状況

グリーンライブセンターは平成2年に開設されて以来、多くの市民の方に親しまれ、支え続けられて今年で25周年を迎えました。現在は、多摩市グリーンボランティア連絡会、恵泉女子学園大学、多摩市の三者による運営で、それぞれの特徴や強みを生かした運営から多くのボランティアが参加していただく施設へととなっております。このような施設運営が順調に進んでいく中で、施設自体は、年々老朽化により不都合な部分が出てきていますが、適宜修繕等を実施していますので、今までに大きな問題は起きていないところです。

公園施設全般の状況

このような状況は公園全体にも生じており、施設の維持管理は、待ったなしの状況です。このような問題発生の状況を改善し、安全に利用できる施設とすることから市は、現在207ある公園緑地の施設更新に向けた取り組みを今年から着手しました。今年度は、公園施設の劣化度合いの基礎的調査を行い、28年度は、27年度調査の基礎データを基に健全度を調べます。そして、29年度に長寿化計画を策定し、国土交通省に承認を得ることで国の支援を受けながら、30年度より公園施設の更新に着手する予定をしています。

次世代に向けた公園作りへ

施設更新に向け開園から30年～40年が経過する中で、公園周辺の地域課題や、グリーンボランティアで活動している方々から寄せられている問題点等を含め解決を図っていくことが必要です。そのため公園の市民ワークショップを開催し地域課

題の合意形成を図ることや、愛護会やアダプト団体との活動の課題解決に向け活動情報交換会を実施しています。

このような施設更新と共に、市内には多くのみどりとして、ニュータウンにより創設されたみどりや、多摩丘陵の面影を残した、里山的風景などが貴重な資産となっています。今、国の環境省において「つなげよう、支えよう、森里川海」というプロジェクトを推進しておりますが、きれいな空気、安全な水、美味しい食材、災害防止など私たちの暮らしは、森里川海が生み出す様々な恵みにより支えられており、このような循環する環境を市内のみどり等から市民一人ひとりが自然の恵みを実感できるよう、市内にある里山的環境の質をたかめ継続的に支えていくことが重要であります。このような状況を踏まえ、より多くの活動が必要であると考え、次世代にむけみどりを持続可能とする道すじとして「みどりのルネッサンス」をまとめています。

また、今年度より活動環境の改善に向け始めたグリーンボランティアとの情報交換会は、7月～11月にかけて10団体の皆様と行ない、環境政策課の職員も加わり生物多様性の新たな視点も含め、充実した情報交換を行なえました。

今後は、このような情報交換を継続的に実施し、施設更新の際に生きた材料として活用する考えであります。次世代につなぐ公園作り・持続可能な緑を育むため、今後もグリーンボランティアの皆様のご協力をお願いします。



現在施設更新を初めている永山北公園

編集後記

公園や緑地を訪れると夏の青々とした印象とは一変し、空いっぱい伸びる枝や冬芽、木の実、そこに野鳥も訪れ季節の移り変わりを楽しませてくれます。

花の少ない時期に繊細工のような優しい色の花を咲かせるロウバイ。香りにはアロマセラピーの効果があるそうですよ。目と香りの記憶から、春はもうすぐそこです。(高澤 愛)

表紙の絵

「クロマツ」(ハマウツボ科)

ニュータウンの造成当初は公園や法面に多く植えられていましたが、最近では少なくなってきています。樹皮が黒っぽいので黒松、それに対し、赤いのが赤松です。

絵・内城 葉子

<プロフィール>1949年東京生まれ。

1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。

雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴です。

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル21号

発行日:2016年1月15日

編集・発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>